

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成30年3月5日 VOL. 53

在宅医療支援のための研修会で志太医師会が事例報告

平成30年2月18日(日) ホテルアソシア静岡（静岡市）を会場に静岡県医師会主催の研修会が開催され、志太医師会が事例報告とパネラーを務めました。

テーマ：「在宅医療の推進を目指した地域医療体制の構築 ～病院と在宅医療関係者の連携強化の視点から～」 （参加者：150人）



志太医師会在宅医療サポートセンター長杉浦正司医師が、「病院と在宅主治医のダブルで支えたがん末期患者さんの一例」として市外の病院と役割を分担し、在宅主治医と訪問看護が、定期的及び緊急時の訪問を行った症例を報告しました。病院と連携をしたことで、痛みが発生したら患者さん自身の判断で鎮痛薬を調整して、疼痛管理ができる機器等の資材の提供を受け、在宅で看取った事例でした。

【先進的な取組みとなるキーワード】 **ダブル主治医体制**

志太医師会在宅医療サポートセンター在宅医療コーディネーター川村豊伸氏は、「志太医師会在宅医療サポートセンター～生き立ちと取組み」

在宅主治医の調整や決定、在宅主治医に対し副主治医や協力医の決定などで円滑に在宅での療養を支援する役割があるとともに、在宅で看取った家や在宅主治医、訪問看護、ケアマネジャーの感想をまとめて、反省点を病院にフィードバックする独自の取組みを行ってきました。

【先進的な取組みとなるキーワード】 **看取り後の課題をフィードバック**



先進2事例の発表、パネルディスカッションから
熱海市医師会（さくら醫院）安達昌子医師

■訪問看護を先行導入することで、ご本人の負担を軽減するとともに、関係機関との情報共有をオンタイムで行う。

静岡県立がんセンター患者家族支援センター在宅転院支援室 入江純子氏

■がんセンターを離れる不安もある中で、訪問看護の導入や二人主治医体制で支えることが主流となるのではないかと。

浜松市医師会（坂の上ファミリークリニック医局長）鳥羽昭三医師

■経過が長い場合、徐々に悪化する場合など信頼関係を築きながら、在宅療養には病気の受け入れが必要であり、多職種による心身のサポートや長期の在宅療養には経済的支援の必要性も示唆した。

浜松市リハビリテーション病院 在宅支援室 高野節子氏

■入院早期からの在宅チームが関わり、退院前カンファレンスや退院前訪問を行い、退院後の状況も共有化を図り、病状の変化に対応できるよう病院と地域が連携を図っている。

など病院と在宅医療関係者の連携強化の観点で、パネルディスカッションが展開されました。